

せいさん 凄惨な一揆弾圧を 伝える瓦

（小丸城跡出土の文字丸瓦と府中三人衆）



昭和7（1932）年、工事の

ため小丸城跡（越前市五分市町）の乾槽を掘削したところ、多数の瓦とともに文字が刻まれた丸瓦2個が発見されました。窺書きで刻まれたその文字によって、文献史料には記されなかった一揆の存在と前田利家による弾圧の様子が明らかになったのです。

発見された丸瓦の一つには「此の



文字丸瓦（味真野史跡保存会所蔵／越前市指定文化財）

書物後世に御らん（覽）じられ、御物かた（語）り有るべく候、然れば五月廿四日いき（一揆）おこり、其のまま前田又左衛門（利家）殿、いき千人ばかりいけとり（生捕）させられ候也、御せいはい（成敗）はりつけ、かま（釜）にい（煎）られ、あぶられ候哉、此の如く候て、一ふて（筆）書とと（留）め候、とあり、5月24日に一揆が起こり、利家が一揆衆を千人ばかり生け捕ったうえで、磔や釜煎で処刑したという、利家による苛烈を極める一揆弾圧の様子が記されています。文頭の「後世に御らん（覽）じられ、御物かた（語）り有るべく候」の文言からは、当時の人々がこの事件から受けた衝撃の大きさが伝わってきます。



小丸城跡
（越前市五分市町／福井県指定文化財）

利家は、不破光治や佐々成政とともに、越前の一向一揆を制圧した織田信長から府中周辺の2郡を与えられます。利家は府中城（現在の越前市役所付近に比定）、光治は龍門寺城（越前市本町の龍門寺を含む一帯）、そして成政は小丸城を拠点としたとされます。一般に府中三人衆と呼ばれる彼らは、天正3（1575）年10月に宝円寺（越前市高瀬一丁目）の寺敷安堵や大滝神郷紙座の営業圏の確定などを3人連名で行っており、遅くともこの頃には彼らによる支配が始まっていたと思われまます。しかし、その支配はあまり長くなく、利家は天正9（1581）年に信長より能登1国4郡を与えられ、成政も同年2月頃までに越中に移封されたと考えられています。（不破光治については不

明）
彼ら戦国武将が当地を去って400年以上の歳月が流れました。凄惨な歴史を語る文字丸瓦が出土した小丸城跡は、本丸跡や土塁跡などが部分的に残されており、春は桜、秋は紅葉に美しく彩られ、訪れる人を楽しませていきます。



龍門寺城跡
（越前市本町／越前市指定文化財）

関連史料・ゆかりの地

小丸城跡



織田信長の家臣で府中三人衆の一人である佐々成政が築いた平城。現在は約50メートル四方に本丸跡などの遺構が残るのみですが、関連する遺構は、東西約300メートル、南北約450メートルの広い範囲に及んでいます。小丸城跡から出土した文字瓦は付近の万葉館で展示されています。

【住所】越前市五分市町28（武生ICから車で5分）